

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- ①言葉の特徴や使い方に関する事項 概ね良好な結果であった
- ②情報の扱い方に関する事項 良好な結果であった
- ③話すこと・聞くこと 良好な結果であった
- ④書くこと 概ね良好な結果であった
- ⑤読むこと 良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式 良好な結果であった
- ②短答式 概ね良好な結果であった
- ③記述式 概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- もっとも正答率の高かった設問
目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する力が必要な問題
- 全国と比べ正答率が低かった問題
文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えをまとめる問題
- もっとも無解答率の高かった設問
話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題

分析

○傾向

- ・後半になるほど無解答率が上がっている。
- ・記述式の問題の正答率が低い。

○成果

- ・朝学習の取組みの成果から、漢字の問題や要点を捉える問題は正答率が高い。
- ・学校として「読むこと」の授業研究を進めてきた成果から、要約や話の中心を捉えることはよくできていた。

○課題

- ・後半の問題までたどり着かなかった児童が多くみられ、早く正確に内容を読み取る力や表現する力に課題があると考えられる。
- ・記述することに課題がある児童が多くみられ、条件をもとにしたり、根拠を見つけて自分の考えをまとめる力に課題があると考えられる。

○●算数●○

(領域ごと)

- ①数と計算 概ね良好な結果であった
- ②図形 良好な結果であった
- ③変化と関係 良好な結果であった
- ④データの活用 概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式 良好な結果であった
- ②短答式 概ね良好な結果であった
- ③記述式 良好な結果であった

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- もっとも正答率の高かった設問
伴って変わる2つの数量関係が比例関係でないことを表の中の数を適切に用いて説明する問題
- 全国と比べ正答率が低かった問題
加法と乗法の混合した計算をしたり、分配法則を用いて答えを求める問題
- もっとも無解答率の高かった設問
示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを、言葉と数を用いて記述する問題

分析

○傾向

- ・数と計算の分野の正解率が全国平均より少ない。
- ・考えの過程をふまえて記述することに課題がある。
- ・多くの情報から必要な情報を選び取るような問いの無解答率が高い。

○成果

- ・算数科において少人数指導を実施している成果から、正答数が半分以下の児童の割合が全国と比べ低く、全体的に学習内容が定着していると考えられる。

○課題

- ・多くの情報から必要な情報を選び取るような問いにおける無回答率が高く、基本的な計算の力や、文章を読み問題の内容を把握する力に課題が見られる。
- ・法則や公式や性質の理解の定着に課題がある。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・ここ数年間、年度によって上下はあるものの、国語、算数ともに、全国平均を上回っている。
- ・国語の正答率は昨年度より下がったものの、平成30年度から上昇傾向にある。
- ・算数は平成28年度から正答率が下がっており、さらなる取組みが必要である。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・高位層は、昨年度大きく上昇したものの、ここ数年間大きな変化がない状況である。
- ・低位層の割合は全国より平均よりも少ないものの、平成27年度から徐々に増加傾向にある。
- ・エンパワー層は、年度によりばらつきがあるものの、全国よりも低い水準で推移しており、昨年度と比較すると大きく減少している。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

1 基礎学力の定着

①読解に必要な、要点を捉える力をつけるために、文章からわかっていることに線を引き、問いに波線を引くなど、視覚的にわかるようにして、大事なところを意識できるようにする。

②数と計算、比例、小数の加法減法、図形の性質などの領域につまずきが見られた。基礎の定着を図るために、スクールサポーターの配置を工夫したり少人数での指導を行ったりするなど、個別に指導・支援できる場面をつくる。

2 言語活動の充実

①単元のまとめや言語活動を行う際に、根拠や理由を添えて表現する活動や、友だちの考えのよかったところ・友だちの意見により深まったことを意識しながら書く活動を行う。その際、「学年×100字」をめやすにして、段階的に長い文章を書く力を身につけることができるよう指導する。

②相手意識をもって説明するために必要な言葉の使い方や、適切に表現する力を身につけることができるよう、各教科の授業の中で相手に伝える場面を設定する。

3 授業方法・内容の工夫と改善

算数においては、「ハロー算数」や、問題づくりなど、学習したことを身近に生かす活動や、授業の中で、実際の生活をイメージできるような課題設定を行う。

4 学校全体としての取組み

①朝の学習で、文章題を含めたプリント学習を行い、文章の読解や自分の考えを表現する力を育成する。

②キャリアパスポートを活用し、行事ごとのふりかえりを記入することを通して、自身の内面を見つめ、変容や成長を実感することで、新たな学習や意欲につなげていく。